



## 2023年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年1月13日

上場会社名 Shinwa Wise Holdings株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2437 URL https://www.shinwa-wise.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 陽一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 岡崎 奈美子 TEL 03-5537-8024  
 四半期報告書提出予定日 2023年1月16日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年5月期第2四半期の連結業績（2022年6月1日～2022年11月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第2四半期	1,477	60.3	220	315.3	224	233.4	163	412.3
2022年5月期第2四半期	921	△31.0	53	111.5	67	598.7	31	—

(注) 包括利益 2023年5月期第2四半期 165百万円 (129.1%) 2022年5月期第2四半期 72百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第2四半期	16.54	15.20
2022年5月期第2四半期	3.86	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年5月期第2四半期	5,925	3,345	56.2	330.84
2022年5月期	4,158	3,023	72.2	311.23

(参考) 自己資本 2023年5月期第2四半期 3,330百万円 2022年5月期 3,003百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年5月期	—	0.00			
2023年5月期（予想）			—	—	—

(注) 1. 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2. 2023年5月期の配当予想は未定としております。

### 3. 2023年5月期の連結業績予想（2022年6月1日～2023年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	2,925	11.2	516	26.2	516	22.4	306	111.9

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年5月期2Q	10,066,518株	2022年5月期	9,651,518株
② 期末自己株式数	2023年5月期2Q	ー株	2022年5月期	ー株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年5月期2Q	9,871,490株	2022年5月期2Q	8,261,080株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(追加情報) .....	12
(セグメント情報) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年6月1日～2022年11月30日)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の感染者数の減少に伴い、社会経済活動が正常化しつつあり、ウイズコロナの新たな段階へ移行しつつありました。7-9月で一時マイナス成長となったものの、輸入の増加がその要因であり、内需は堅調でした。

ウクライナ情勢による欧州のエネルギー価格の高騰、中国のゼロコロナ政策による外需の減少に加え、急激な円安進行による諸物価高騰による消費が下振れするなど、依然として景気減退の状況が続いているものの、日本国内の美術品市場は引き続き取引の活況が維持されているとみられます。

そのような状況の中、アート関連事業において、取扱高は前年と比べ、大きく増加いたしました。その中でも、オークション事業は、前年同期と比し、75%増の35億4,345万円となりました。オークション事業の新しい柱と位置付けるコンテンポラリーアート(現代美術)も活況をみせ、前年同期174%増の結果となりました。また、前期の半ばより連結子会社となったアイアート株式会社も加わり、オークション事業の強化を推進しております。

プライベートセール・その他事業は、美術品等の相対取引、資産防衛ダイヤモンドを中心に順調に売上を伸ばしております。

その他事業では、自社所有の売電事業及びマレーシアでのPKS事業は順調に稼働を継続しております。

前期第4四半期から業務を開始したEdoverse株式会社は、Edoverse Foundationが行うメタバース空間開発やデジタルツインのコンサルティング業務を積極的に推進し、早期に同社がメタバース空間内において新たな経済圏の構築が出来るようコンサルティング業務を進めております。なお、上半期においては会計処理等の条件を詰めており、下半期より売上を計上する予定です。

セグメント別の業績は次のとおりです。

## ①アート関連事業

当第2四半期連結累計期間は、取扱高4,342,166千円（前年同期比68.5%増）、売上高1,387,387千円（前年同期比53.3%増）、セグメント利益298,020千円（前年同期比90.7%増）となりました。

種別の業績は次のとおりです。

種別	第34期第2四半期連結累計期間							
	自 2022年6月1日 至 2022年11月30日							
種別	取扱高 (千円)	前年比 (%)	売上高 (千円)	前年比 (%)	オークション 開催数	オークション 出品数	オークション 落札数	落札率 (%)
近代美術オークション	1,134,680	52.3	212,244	63.0	3	237	206	86.9
近代陶芸オークション	200,380	△32.5	33,748	△32.1	2	325	287	88.3
近代美術PartⅡオークション	127,240	62.9	28,781	78.8	3	448	418	93.3
コンテンポラリーオークション	527,260	174.3	98,097	202.1	3	133	116	87.2
その他オークション	567,740	185.1	116,926	181.4	6	1,524	1,397	91.7
アイアートオークション	986,150	92.5	197,832	104.7	3	595	470	79.0
オークション事業合計	3,543,450	75.1	687,631	87.5	20	3,262	2,894	88.7
プライベートセール	699,751	26.6	656,808	23.9				
その他	98,965	—	42,946	435.5				
プライベートセール ・その他事業合計	798,716	44.4	699,755	30.0				
アート関連事業合計	4,342,166	68.5	1,387,387	53.3				

(注) 1. 取扱高の前年比と売上高の前年比の乖離の大きな要因のひとつに、商品売上高の増減があります。商品売上高は、オークション落札価額に対する手数料収入、カタログ収入、年会費等と同様に売上高を構成する要素のひとつであり、在庫商品を販売した場合、その販売価格（オークションでの落札の場合には落札価額）を商品売上高として、売上高に計上することとしております。

2. その他オークションは、出品の状況により随時開催しております。

## i) オークション事業

当第2四半期連結累計期間は、オークションの開催回数は20回（前年度開催回数18回）でした。内訳は、近代美術オークション、近代美術PartⅡオークション及びコンテンポラリーアートオークションを各3回、近代陶芸オークション、ワインオークション、MANGAオークションを各2回、西洋美術オークション、Bags/Jewellery&Watchesオークション、を各1回です。加えて、2021年9月より当社の子会社となったアイアート株式会社のオークションが3回行われました。

近代美術オークションは、出品点数18.8%減、落札点数6.8%減となりました。しかし、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で156.0%と高い水準で推移し、平均落札単価も63.7%増と好調でした。近代陶芸オークションは、出品点数17.1%減、落札点数18.7%減となり、平均落札単価は前年比で17.0%減少となりましたが、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で114.2%と高水準で推移いたしました。近代美術PartⅡオークションは、出品点数14.2%減、落札点数6.1%減となりました。平均落札単価は前年比で168.2%増加し、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で393.0%と高水準で推移いたしました。一方、コンテンポラリーアートオークションは出品点数56.5%減、落札点数57.0%減となりました。平均落札単価は前年比で641.9%増加し、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で152.0%と高水準で推移いたしました。

その他オークションでは、ワイン・リカーオークションが平均落札単価で前年比6.5%増となりました。エステイメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で147.1%と高水準で推移いたしました。

アイアートオークションは、オークションを3回開催し、出品点数595点、落札点数470点という内容となりました。このアイアート株式会社の子会社化により、売上高が101,203千円増となり、連結決算に大きく貢献致しました。

#### ii) プライベートセール・その他事業

プライベートセール・その他事業では、当第2四半期連結累計期間は、美術品のプライベートセールで順調に売上を伸ばしました。資産防衛ダイヤモンド販売事業は、売上高400,137千円（前年同期間比98.3%増）と、資産防衛としてのダイヤモンドの需要の高まりから、引き続き当第2四半期連結累計期間も順調に売上をのばしております。

結果として、プライベートセール・その他事業は、前年比で取扱高44.4%増、売上高30.0%増と高水準で推移しました。

#### ②その他事業

子会社保有の太陽光発電施設による売電事業は16,942千円、またマレーシアにおけるPKS事業では73,152千円の売上となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のその他事業のセグメント売上高は90,095千円（前年同期間比536.2%増）、37千円のセグメント利益（前年同期間は31,051千円のセグメント損失）となりました。

その他、各事業の販売費及び一般管理費の見直しを行う等、グループ全体の利益体質化に向けた改善に取り組み、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,477,482千円（前年同期間比60.3%増）、営業利益220,157千円（前年同期間比315.3%増）、経常利益224,719千円（前年同期間比233.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益163,285千円（前年同期間比412.3%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①財政状態の分析

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、5,925,029千円となり、前連結会計年度末に比べ、1,766,767千円増加いたしました。その主な内訳は現金及び預金の増加1,045,651千円、オークション未収入金の増加499,517千円、商品の増加261,458千円、のれんの減少32,185千円によるものであります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、2,579,908千円となり、前連結会計年度末に比べ、1,445,193千円増加いたしました。その主な内訳はオークション未払金の増加額1,224,016千円、その他流動負債の増加額504,737千円、短期借入金の減少100,000千円及び未払法人税等の減少86,966千円によるものであります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、3,345,120千円となり、前連結会計年度末に比べ、321,573千円増加いたしました。その主な内訳は資本金の増加80,302千円、資本剰余金の増加80,302千円及び利益剰余金の増加163,285千円によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末より1,047,828千円増加（前年同期間は162,607千円増加）し、2,233,414千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は1,008,038千円（前年同期間は230,554千円の獲得）となりました。これは主にオークション未払金の増加額1,224,016千円及びその他の増加額332,441千円による資金増加と、オークション未収入金の増加額499,517千円による資金減少によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は13,186千円（前年同期間は54,076千円の使用）となりました。これは主に投資有価証券の売却による収入37,575千円による資金増加と、その他の払込による支出20,606千円による資金減少によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は33,751千円（前年同期間は12,467千円の使用）となりました。これは主に株式の発行による収入155,625千円の資金増加と短期借入金の純減少額100,000千円及び長期借入金の返済による支出15,614千円の資金減少によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

- ・2022年7月13日に発表いたしました連結業績予想について変更はありません。
- ・前期第4四半期から業務を開始したEdoverse株式会社は、Edoverse Foundationが行うメタバース空間開発やデジタルツインのコンサルティング業務を積極的に推進し、早期に同社がメタバース空間内において新たな経済圏の構築が出来るようコンサルティング業務を進めております。なお、Edoverse株式会社がコンサルティング業務を行っているEdoverse Foundationはパナマ法人であるため、会計処理等の条件に時間を要しており、上半期の売上計上を見送っております。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,312,473	2,358,124
売掛金	93,036	1,952
オークション未収入金	44,119	543,636
商品	1,172,144	1,433,603
前渡金	9,988	—
その他	245,988	359,183
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	2,877,748	4,696,499
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	36,688	32,370
機械装置及び運搬具(純額)	19,633	8,377
土地	12,900	12,900
その他(純額)	24,526	27,075
有形固定資産合計	93,748	80,723
無形固定資産		
のれん	724,163	691,978
ソフトウェア	26,840	22,352
無形固定資産合計	751,003	714,330
投資その他の資産		
関係会社株式	60,600	60,600
投資有価証券	115,735	111,502
繰延税金資産	162,015	138,208
その他	210,769	236,524
貸倒引当金	△113,359	△113,359
投資その他の資産合計	435,761	433,476
固定資産合計	1,280,512	1,228,530
資産合計	4,158,261	5,925,029
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	20,659	31,674
オークション未払金	84,744	1,308,761
短期借入金	100,000	—
1年内償還予定の社債	5,000	—
1年内返済予定の長期借入金	31,228	31,228
未払法人税等	177,508	90,542
賞与引当金	38,271	28,010
役員賞与引当金	36,500	8,157
その他	267,994	772,732
流動負債合計	761,907	2,271,105
固定負債		
長期借入金	273,429	257,815
退職給付に係る負債	30,333	32,633
訴訟損失引当金	49,925	—
その他	19,120	18,354
固定負債合計	372,807	308,802
負債合計	1,134,714	2,579,908

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,594,264	1,674,567
資本剰余金	1,315,470	1,395,772
利益剰余金	79,538	242,823
株主資本合計	2,989,273	3,313,164
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8,093	13,693
その他有価証券評価差額金	6,495	3,558
その他の包括利益累計額合計	14,588	17,251
新株予約権	19,684	14,704
純資産合計	3,023,546	3,345,120
負債純資産合計	4,158,261	5,925,029

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)
売上高	921,787	1,477,482
売上原価	411,393	656,332
売上総利益	510,393	821,149
販売費及び一般管理費	457,387	600,992
営業利益	53,005	220,157
営業外収益		
受取利息	175	314
為替差益	8,039	6,005
未払配当金除斥益	252	—
デリバティブ評価益	1,097	977
法人税等還付加算金	566	—
暗号資産評価益	6,433	—
その他	1,078	2,126
営業外収益合計	17,643	9,423
営業外費用		
支払利息	2,831	2,026
暗号資産評価損	—	2,250
その他	424	584
営業外費用合計	3,256	4,861
経常利益	67,393	224,719
特別利益		
賞与引当金戻入額	—	9,870
役員賞与引当金戻入額	—	1,000
投資有価証券売却益	33,479	37,574
特別利益合計	33,479	48,444
特別損失		
訴訟関連損失	—	5,646
補修工事関連費用	3,090	—
和解金	10,500	—
貸倒損失	42	—
特別損失合計	13,633	5,646
税金等調整前四半期純利益	87,238	267,517
法人税、住民税及び事業税	59,982	79,129
法人税等調整額	△4,618	25,102
法人税等合計	55,363	104,232
四半期純利益	31,874	163,285
親会社株主に帰属する四半期純利益	31,874	163,285

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益	31,874	163,285
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	43,824	△2,937
為替換算調整勘定	△3,252	5,600
その他の包括利益合計	40,572	2,663
四半期包括利益	72,447	165,948
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	72,447	165,948

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	87,238	267,517
減価償却費	15,273	21,831
のれん償却額	16,700	32,185
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	17	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7,909	△10,261
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△14,500	△28,343
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	591	2,300
受取利息及び受取配当金	△175	△314
支払利息	2,831	2,026
売上債権の増減額 (△は増加)	415,815	91,086
オークション未収入金の増減額 (△は増加)	137,575	△499,517
未収入金の増減額 (△は増加)	28,996	△1,246
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△97,939	△258,426
前渡金の増減額 (△は増加)	25,623	9,988
仕入債務の増減額 (△は減少)	△7,152	10,655
オークション未払金の増減額 (△は減少)	△12,328	1,224,016
前受金の増減額 (△は減少)	△13,100	20,024
デリバティブ評価損益 (△は益)	△1,097	△977
投資有価証券売却損益 (△は益)	△33,479	△37,574
固定資産除却損	300	—
訴訟関連損失	—	5,646
その他	△238,112	332,441
小計	320,988	1,183,057
利息及び配当金の受取額	△658	314
利息の支払額	△2,831	△2,026
法人税等の支払額	△86,944	△149,677
法人税等の還付額	—	31,941
訴訟関連損失の支払額	—	△55,572
営業活動によるキャッシュ・フロー	230,554	1,008,038
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,190	△3,781
無形固定資産の取得による支出	△113	—
定期預金の預入による支出	△100,000	△100,000
定期預金の払戻による収入	100,000	100,000
敷金及び保証金の回収による収入	200	—
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△100,000	—
投資有価証券の売却による収入	50,026	37,575
その他	—	△20,606
投資活動によるキャッシュ・フロー	△54,076	13,186

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△13,200	△100,000
長期借入金の返済による支出	△12,650	△15,614
社債の償還による支出	△5,000	△5,000
株式の発行による収入	—	155,625
配当金の支払額	△12	—
セール・アンド・リースバックによる支出	△1,290	△1,259
新株予約権の発行による収入	19,684	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,467	33,751
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,402	△7,148
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	162,607	1,047,828
現金及び現金同等物の期首残高	345,571	1,185,586
株式交換による現金及び現金同等物の増加額	339,371	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	847,551	2,233,414

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束見通し時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)	四半期連結 財務諸表計上額
	アート関連事業	その他事業			
売上高	904,984	16,802	921,787	-	921,787
セグメント利益又は損失(△)	156,276	△31,051	125,225	△72,219	53,005

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△72,219千円であり、なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「アート関連事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結会計期間にアイアート株式会社の全株式を取得し連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては801,604千円であります。なお、のれんの金額は、企業結合日時点の識別可能資産及び負債の特定及び時価の見積りが未了であるため、取得原価の配分が完了しておらず、暫定的に算定された金額であります。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)	四半期連結 財務諸表計上額
	アート関連事業	その他事業			
売上高	1,387,387	90,095	1,477,482	-	1,477,482
セグメント利益	298,020	37	298,058	△77,900	220,157

(注) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△77,900千円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。